

学力の基礎をきたえ どの子も伸ばす研究会ニュース

NO. 360

学力研の広場

ホームページアドレス <http://gakuryoku.info/>

2025. 3. 9

学力研発行

常任委員長 岸本ひとみ

郵便振替 00920-9-319769

現在、巷の書店の障害コーナーでは発達障害に関する書籍を多く見かけます。一方で知的障害に関する書籍は注意しないと見つけることすらなかなか困難です。どちらの障害が大変だとか論じるのではありませんが、学校教育現場ではあまり知的障害に関心が注がれておらず、発達障害については勉強されているが知的障害については定義すら知らない先生方も多いのが現実なのです。本書が、知的なハンディをもって日々困っている人たち・子どもたちへの支援に少しでも繋がることを願っております。

宮口幸治「ケーキの切れない非行少年たち（新潮新書）」より

学力研は「すべての子どもに確かで豊かな学力を」を、研究会の目標として掲げています。公教育の中で取り残されがちな、知的にハンディのある子どもたちに目を向けると、いつもの実践だけではなかなか学力の基礎が見につかない現象に、毎年悩んでいます。今回、全国フォーラムで講演していただくことになった宮口幸治さんの著書の中にある気になる一節を紹介しました。

岸本ひとみ

CONTENTS

◇特集 3月の準備が新年度のスタートダッシュを決める◇

わたしが年度末・年度初めにしたこと、心掛けていること	鈴木 基久 2
最高のスタートをするために	加藤 英介 5
学年末から春休みのルーティーン	岸本 ひとみ 7
高学年こそ「スタート」が大切	堀井 克也 9

◇連載◇

「どの子も伸ばす」を本気で考える 77 「意欲格差」に負けない! 公立小学校へ	岡本 美穂 12
考える力をつけるための授業の組み立て方⑩ 情報量をあえて減らす	荒井 賢一 15
社会科(歴史) 授業力アップ講座 26 指導法研究⑧	深澤 英雄 17
鈴木大裕著『崩壊する日本の公教育』(集英社新書) の紹介	金井 敬之 19
第18期・学力研・先生のための学校・第6回の報告	鈴木 基久 21
2/16 家庭教育部 「春の集い」報告	根無 信行 23
局長・常任委員長だより 25
学力研カレンダー 26

わたしが年度末・年度初めにしたこと、心掛けていること

鈴木基久

年度末、年度初めは教職員にとって最も多忙だと感じる期間である。

年度末は、成績処理、要録、学級編制、次年度への引き継ぎ、教育課程の原稿作りなどの仕事を締め切りに間に合うように確実に行わなければならない。

年度始めは、新しい教職員を迎えて新年度の学校をスタートさせる独特の緊張感がある。その中で、新しい学級の子どもたちと出会い、人間関係を築いていかなければならないため、いつも以上に気を遣う大変さがある。

特に新しい学校に異動したときの大変さは、気付かないうちに大きなストレスとなっている可能性がある。私自身の経験では、4月下旬の参観会を終えた頃に、いつもは感じない

疲労感や腹痛に見舞われたことがあった。それ以来、異動した4月は無理をしない、頑張り過ぎないように気を付けている。「年度初めで何が一番大切か」と問われれば、間違いなく体調を崩さないことと私は答える。なぜ、異動すると大変なのか、それは以下のことをしなければならぬからだ。

- ① 新しい職員との人間関係を築く
- ② 校内の場所、物、きまりを覚える
- ③ 地域、学区のことを知る
- ④ 子どもとの人間関係を築く
- ⑤ 保護者との人間関係を築く

異動するとにかく誰かに聞いて覚えていくしかないことがたくさんある。よく分からないまま保護者に対応してややこしいことになってしまいうこともあるので、分からないこ

とは聞くしかない。

ちょうど1年前、私は現在の勤務校に異動することが決まった。3月下旬に挨拶に伺い、教育課程の冊子をいただいたて帰った。

私は春休みに新しい勤務校の学区の探検に出かけた。これは、3年生の総合的な学習の時間で地域について学ぶことになっているため、教員が地域のことを知らなければ単元を構想することができないためだ。また、社会科でも地域について扱うので、地域の公共施設などについて知っておく必要がある。小回りが利く自転車で出かけて、学区内をぶらぶらして気になったものを撮影し、地域の偉人の資料館を見学した。4月には、地域探検をどんなコースで行うかの下見を行い、4月末には1回目の探検に出かけた。

前任校でも地域のことを知るためにGoogleマップで見つけた情報を基に学校の近くの養蜂場や農家を訪

問し、総合的な学習の時間や社会科の「農家の仕事」の学習で見学できるようにお願いしたこともあった。

地域学習は、教師自身が学習者となって探究を楽しむことが大切だと思っている。私はNHKの「ブラタモリ」が好きでよく見るのだが、あの番組のようにぶらぶら歩きながら気になることを少しずつ見つけていくことに、総合的な学習の大切なポイントがあるのではないかと思っている。

4月には、子どもや保護者との関係を築かなければならない。では、子どもからの信頼と保護者からの信頼、どちらを優先させるべきだろうか。

数年前に久保先生から問われたときに、私は子どもだと考えていた。しかし久保先生は、保護者を優先すべきだと答えた。その理由として、子どもとは毎日会うのでこれくらいからでも信頼を獲得できる。一方で

大人は一度下した評価をなかなか変えないことが多い。多くの保護者が今年の先生はどんな先生かなと思つて4月の参観会に来ることを考えると4月の参観授業は、保護者の信頼を勝ち取るための大切な時間であると言える。そこで「信頼できそうな先生だな。」と思つてもらえればその後もうまくいく可能性が高くなるのである。

私の勤務校では、PTA総会があるため4月に学級懇談会は行われない。そのため、授業を通して保護者にメッセージが伝わる授業にしたいと考えて、今年度は学活で基本的な生活習慣（睡眠時間とゲーム動画などのスクリーンタイム）の授業をした。

事前に 구글 フォームでアンケートを取り、その結果から睡眠時間が足りているか、ゲーム動画等のスクリーンタイムが長くても大丈夫なのかについて、子どもたちに考えさせ、科学的な研究から分かっている

ことを紹介していった。

この授業は2年生以上のどの学年でも同じように実施できるよさがある。さらに多くの保護者が子どもスクリーンタイムについて迷ったり悩んだりしているので、授業が親子で課題を共有できるよい機会になる。ワークシートの最後には保護者の感想記入欄を作っておいた。家庭での生活習慣を見直すきっかけになり、保護者から感謝されるともおススメの授業だと思つている。アンケートやプレゼンは一度作っておけば、使いまわせるのでとても便利である。

すいみんについてのぎもん

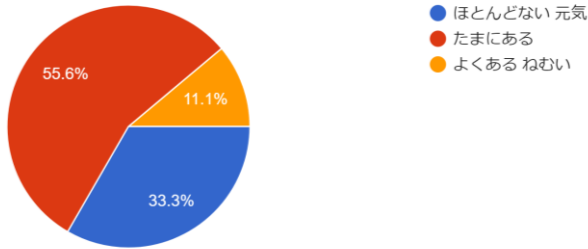
- ①何時間ねむればいいのか？
- ②ねむるといいことあるのか？
- ③ぐっすりねむるための方法？

ゲームについてのぎもん

- ①たくさんやってもいいのか？
- ②時間を守れなくなるのは仕方がないのか？
- ③上手な楽しみ方は？

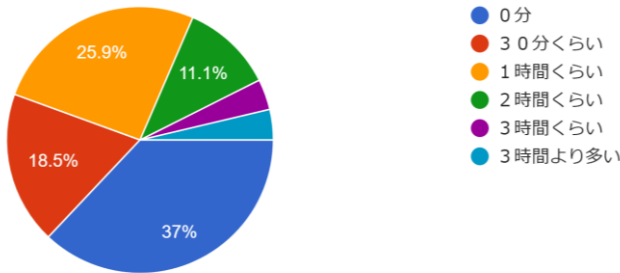
学校でねむくなってしまふことはありますか。

27 件の回答



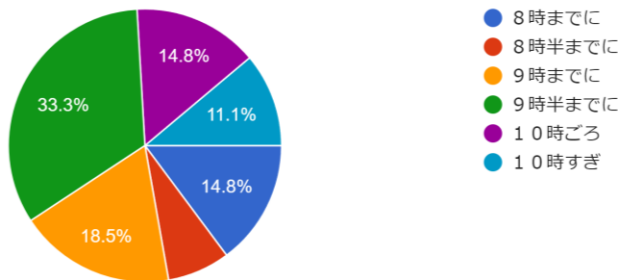
学校がある日にゲームをする時間は何時間ですか。

27 件の回答



学校がある日 何時にねますか。

27 件の回答



授業では、次のようなアンケートの結果のグラフを示し、今のままの生活でよいのかを考えていく。保護者の感想には、「生活を見直すよいきっかけになった。」と書かれているものが多かった。

保護者の皆様へ 家での生活を見直すきっかけにしてほしいと考えて授業をしました。

授業の感想をいただき、今後に生かしたいと思います。御協力をお願いします。睡眠時間やゲーム、動画視聴時間については、小児科医の成田奈緒子さんの著書を参考にしました。

感想

ゲームやTVを長時間やらせる事は悪影響^Bとは矢口ではいいましたが、どうしてもゲームやTVを見せとくのが親として楽だったのが、本も読まないとTVやゲームがない生活が出来なくなっているなど、思います。ポケモンのゲームを与えてしまった時、やり過ぎていたのでゲームを禁止にしたから逆に出来ない事でイライラして、ゲーム依存症^Dなど思っていたので、今日のお話を聞いた事で本も読時間を守る事、睡眠や自分の身にも悪影響がある事を十分に理解出来たこと、思います。なかなか親の言う事を聞いて

くれなくなってきたので、こういった内容について再興してもらえると素直に受け入れてくれるので感謝します。

『最高のスタートをするために』

加藤 英介

年度末から年度初めに向けて

最高学年を担任するにあたり、年度末にしておいた方がよいことは、目的の明確化である。何のためにどのようなことをするのかということだ。目先のことばかりに囚われていては、その場しのぎにしかない。だからこそ、年度末の時間のあるときにじっくりゆっくり考える。

さて、時間管理のマトリクスという言葉をみなさんは聞いたことがあるだろうか。これは、物事の優先順位を決める判断の一つとして使うものである。縦軸を緊急度（すぐに取り組むべきかどうか）、横軸を重要度（教育の本質や成長に関わるかどうか）として4つに分類される。例えば、緊急であり重要であることが授業計画だとする。どの時期にどのような内容をどの程度するのかは誰しもがすぐにやるべきことであろう。しかし、本当

に大切にしなければいけないことは緊急ではないが重要なことなのである。それが目的である。

一年後、どんな学年・学級にしたいのかを考え、学年・学級経営の方針を決める。決める際には具体的な場面をイメージするといい。「互いを認め合うことのできる最高学年」とした場合、小学校生活最後の学校行事である卒業式では、単立の言葉は仲間や家族、周りの人へのメッセージや歌を入れたり、会場には年間行事で仲間との絆を深めた思い出を貼り出したりして、認め合いの場面を取り入れる。また、式の最中は学校の顔として凛々しく過ごす姿が望ましいとする。すると、4月からのように行事を設定したり、授業での取り組み方を計画したりすればよいのが見えてくる。凛々しい卒業式にするために、最後の授業参観で

は、一人ひとりが思いを語れる場面をつくる。修学旅行では最高学年として望ましい態度や学び方を身に付けるとともに、自分と友達、仲間のよさを発見させる。社会見学では、しおりに沿って行動し、時間を意識し、責任をもって行動させる。そして、運動会では競技や演技など一休感が出るように練習をする。努力すれば結果が表れるよう構成を考える。普段の授業では、教師の指示が届くようにする必要があり、聞く土台が何よりも大切である。例えば、国語であれば「音読・漢字クイズ」算数であれば「音声計算・百マス計算」で一時間の学習をルーティン化させ、聞ける雰囲気と環境をつくる。そのために、始業式では「聞く」ことを大切にした学級開きを行う。

このように、目的を決めることで達成するための取組が見えてくる。取組が決まれば作戦が見えてくる。抽象的なことを具体的にすることで、目的を明確にすることで、ある程度余裕をもった状態で子どもたち

を迎えることもできる。

この時点で、年間計画や行事の見通しをある程度もてるようになる。だから、年度初めにすることは、マトリクスであれば「重要であり緊急である」ことから優先して一気に取り組む。

- ・校務分掌の確認と役割分担
- ・児童名簿の作成・指導要録の確認
- ・健康診断票・歯の検査表
- ・前年度の引き継ぎ書類
- ・学級発表掲示物
- ・朝の会や帰りの会の流れ
- ・掃除と給食のシステム・当番表
- ・学級経営案・週案・時間割
- ・教室環境の確認
- ・教科書の仕分けと教材注文
- ・年間の学年日より

これらは、なるべく2、3日で終わらせるよう分担して取り組むと同時に、学校のきまりやシステムの確認をする。特に、始業式の流れや給食、掃除といった重要な場面や毎日行っていることに関しては、

積み上げを意識して学年で確実に決める。また、生徒指導のルールも決めておく。学級での指導なのか学年での指導なのか、生徒指導主任に報告すべきこと、管理職に伝えるべき内容などリスクマネジメントも想定して行う。

教室を飛び出してしまった場合は、追いかけない。職員室に連絡し対応してもらおう。友達にけがをさせてしまった場合、顔から上のけがは保健室と病院受診、保護者への連絡をする。器物破損を発見した場合、学年主任に報告と生徒指導主任に連絡と相談など、学年の児童を見ながら、対応策と報連相の重要性を伝える。

そして、一番大切な授業を話し合う。身に付けた力、身に付けるための学習方法、身に付けた力を生かす場面を意識して決める。国語や算数、理科や社会などで身に付けた力は総合的な学習の時間で生かす。仮に「ふるさとの未来」というテーマで取り組むとする。地域の人々や在校生に、町のよさとこれからの未来

について語ることをゴールとする。そのためには、社会での調べ学習や見学、国語での聞き方・話し方を生かしたインタビュー、算数のデータ活用など、それぞれの教科を横断的に学べるように意識をし、見学や出前授業で学んだことがすぐに生かされるよう計画を立てる。また、

お楽しみ会や学年イベントや学校行事で、司会進行、運営方法、小さな成功と失敗の体験を積み重ねる。こうやって、学習を整理することにより、自分だけでなく学年にも、目的を明確にとらえさせることができる。年度初めにそこまでするのかわとされる人もいるかもしれないが、それぐらいしておくことにより、心にとりをもつて仕事をすることができ。

始業式が始まれば、授業や行事など多くの仕事が一気にやってくる。考える間もなくあつという間に過ぎてしまう。だからこそ、年度末・年度初めの落ち着いた時期に最高学年としてどんな子どもたちに育てたいかを考える必要がある。

学期末から春休みのルーティーン 加印 いろえんぴつ 岸本ひとみ

みなさんがこれを読んでおられるのは、3月10日頃と想定しています。毎年迎える、学校にとってのお正月。担任した子どもたちを送り、新しく担任する子どもたちを迎え、一年間で最も忙しい4週間となります。

もし、みなさんが異動を抱えておられないのでしたら、1週間ごとに予定を立てて、都度修正しながら、過ごしていけると効果的です。

異動を抱えておられるのなら、無理は禁物。新しい学校では、自分の力の60%を1年間で出せば上々とお考え下さい。子どもの質も違う、保護者の感覚も違う、何より同僚との関係性を築くことが最優先になりますから。

●1年間のまとめとして

自分では、これがうまくいかなかったと思うことを洗い出して、それに関した本を

読みます。そのための選書期間が、3月初旬です。

今年は、この2冊です。

・貧困化する授業からの反転

デジタル化と「子ども主体」の偽装を

眞正の教育へ

子安潤 著(学文社)

常々、Chromebookを、文字もおぼつかない低年齢の子どもに持たせているものかと、悩んでいました。直接体験の貧弱なコロナ禍世代の子どもなのに、タブレットを使うぐらいなら、もっと五感を働かせるような学習が必要だろうと思う私にとっては、この本を読んだら、豊かな授業って何かを、科学的に説明できるようになるかと考えたからです。

・境界知能の子どもたち

「IQ70以上85未満」の生きづらさ

宮口幸治著 (SB新書)

宮口さんののは、kindle版があるので、そちらが廉価でした。

こちらは、グレーゾーンって言われているけど、大人になるまでにどんなことを身につけさせてやればいいのかがよくわからない子どもへのアプローチのためです。

低学年時に、療育や訓練への道をつけておくと、思春期になって自己肯定感が持てないという現象から、いくら救うことができます。それができるようになるためには、やっぱり理論が必要です。

●春休み11年間行事予定などを確認する

4月当初の職員会議で、大きな行事はほぼ確定します。その行事予定の中の、抜け落ちてはいけないものについては、きつちり頭の中に入れます。運動会や学習発表会の日程はもちろんですが、左記のものもポイントです。

・保護者参観日

何曜日の何時間目なのか、参観後に行事

が予定されているか否か、など、予定を
組む上でポイントとなります。

・校外学習の日

社会見学に行くのなら、施設を予約しな
ければなりません。写生会の素材を探す
学年なら、それまでに図工の指導を逆算
して進めなければなりません。

・運動会や音楽会（学習発表会）の

演目を考える準備

気が早いと思われるかもしれませんが、
ど、だいたいGW頃には、10月の運動
会と11月の学習発表会の演目は、おお
まかに決まっています。4月に子どもた
ちの得手不得手をつかんだら、それを生
かせる演目を考えます。

そのためには、前年度のもの映像を
見たり、過去のもと重ならないように調
整しなければなりません。そこで、この
時期に、同僚たちにいろいろきいて回る
のです。

・会計関係の処理方法の確認

これも、意外に抜け落ちる項目です。行
事予算や、学年の予算で、公費のものと
父母負担のものがありません。この処理
を間違えると、後々いろいろとさかのぼっ
て処理しないといけなくなります。管理
職や事務の先生、前年の担任等に、詳し
くきいて、会計簿も確認しないといけま
せん。

●何といっても外で学ぶ機会を持つこと

忙しいからといって、土曜日曜まで学校
に埋没するのではなく、3月20日（祝）
から、4月6日（日）までの間に、ひとつ
でもいいので、新学期スタート講座に参加
されることをおすすめします。

学力研の講座に参加して下されば、それ
はそれで嬉しいですが、学校の外で、新鮮
な空気を吸いながら、学ぶ機会を持つこと
が大切です。

書籍で学べることも、オンライン講座で
学べることも多いですが、やはり、対面で
講師の人に直接質問したり、参加者の中で

同じようなことを考えている人と知り合い
になつて、縁がつながったりすることもあ
ります。対面の学習会のよさは、そこにこ
そあると考えています。

片道2時間かけて、京都の立命館大学で
開催されていた講座に出たこともあります。
土日で宿泊して、東京に行ったこともあります。
まず、気持ちも新たな春こそ、今までもは
違うチャレンジができるはずです。ぜひ、
外で学んでみて下さい。

★1年生担任の方へ

1年生の担任は、他の学年とは全然違
います。各家庭、各幼稚園・保育園から
集まってきた子どもたちは、それぞれ
の規範で育っています。それを、学校
の中ではどうふるまえばいいかを、丁
寧に指導しなければなりません。言葉
づかいからして意識しないといけない
ところが難しい。

困ったら、ぜひ「1年生講座」にご参
加下さい。

高学年こそ「スタート」が大切

春日井学力研 堀井 克也

◎「誰とも関わること」が肝心

私は初任の年に五年生を担任して以来、高学年の担任を十一年間しませんでした。ところがここ三年は六・五・五と三年続けて高学年を担任しています。そして、まだ確定ではないのですが、来年度もどうやら高学年が濃厚だと聞いています。一昨年度に六年生を初めて担任するときは「高学年の担任なんて、私に務まるんだろうか…」とハラハラドキドキしていましたが、幸いにして三つのクラスはそれぞれに良いクラスになって、子どもたちは各々豊かな成長を見せてくれました。低・中学年には無い魅力が、高学年にはあると感じています。

この三年間心掛けてきたのは、「居心地の良いクラスをつくること」でした。具体的には、必要とあれば誰とも関わられる関係を、どの子にも保証することでした。放っておくと少人数グループが固定化し、グル

ープ間でのめごと、グループ内でのめごとが頻発するのが高学年の難しさです。担任にとっては頭痛の種ですが、当の子どもたち自身も決して望んでもめごとを起しているわけではありません。苦しいのに、どうしていいか分からないのです。

そこで、できれば初日から「誰とも関わられるクラスを目指そう」というビジョンを伝えていきます。これは、「誰とも友達になって仲良くしようね」ということは全く違います。5年生ともなれば、性格の相性があって、どうしても好きになれない相手がいるのも当然です。それを無視して「みんな仲良くしようね」などと口にする教師を、子どもは決して信用しません。

放っておけば一部の仲の良い子としか関われないのが自然なところを、なぜ敢えて「誰とも関わること」を求めていくのかを、きちんと説明します。高学年の、特

に女子の間でドロドロしためごとがよく起くるのは、その子たちとしか関わることができないが故に、「彼女たちに捨てられたらどうやって生きていけばいいのだろう?」という不安が常にあることが原因だと伝えます。めごとの具体例を示しながら話をすると、力強くうなずく子、「わかる」「あるある…」とつぶやく子がたくさんいます。そんな時にもし、クラスの誰とも関わられる状態になっていけば、グループから一旦離れて助けを求めることができます。それがどれほど価値のあることを伝えると共に、それは決して担任一人の力で実現できることではなく、あなたたち自身の力で達成できることなのだということ forcefully 訴えていきます。

◎「2・6・2」の上位「2」をつかむ

前節で述べたことも含めての話ですが、新年度の最初の数日間で、学級を大まかに「2・6・2」に分けた中の上位2割の心をグツと惹き付けることが大切です。「この先生は、何かちがうぞ。」「この人の話はずっと聞いていた方がいいかもしれないぞ。」と、クラスのリーダーになる子どもたちを感じ

させることができれば、しめたものです。

「誰でも関われるクラスを目指す」のは、安心・安全のためだけではありません。その方が得なのだということも併せて伝えていきます。誰でも関われるようになっていくと、様々な学習の場において色々な子と対話しながら学ぶことが可能になります。それは、確実に自分自身の人間としての幅を広げることにつながります。また、人それぞれ得意不得意がありますから、得意な学習では人に教えて貢献することができ、不得意な学習では得意な人に助けてもらうことが可能になります。このような、賢い子どもたちの心をグッと惹き付けるような語りを、4月は意図的にしていくのです。

もう一つ、語りの例を示します。「誰とも関われる」の第一歩は、おとなりさんとの関係づくりです。私は可能な限り男女が隣り合うような席にした上で、教科の学習に限らず、朝の会や帰りの会におとなりさんとのペアトークの機会を設けます。その最初のペアトークの時に、こんな話をします。「みなさんはこれまでに、相手の目を見て話を聞きましたよね…ということ、何

度となく言われてきたと思います。どうですか？（うなずく子どもたち）では、なぜ目を見て聞く必要があるのでしょうか？：わかりますか？実は、相手の目を見て話を聞くことで、言葉には出さないけれど「私はあなたの話に興味がありますよ、真剣に聞く準備が来ていますよ」というメッセージを伝えていくことになるのです。逆に、相手の目を見ないことで「俺はお前の話になんか興味ないからな、聞きたくないからな」というメッセージを言外に伝えていることになるのです。こういう言葉にならないメッセージのことを『ヒドウン・メッセージ』というのですよ。さあ、あなたはどのような態度で、おとなりさんの話を聞きますか？では、「お願いします」と言ってから始めましょう。こう伝えてからペアトークをすると、意識の高い子ほど相手の目をちゃんと見て挨拶をしてから対話を始めます。一つ一つの行為の意味、価値を、子どもたちは思いつかないような角度から伝えることができる教師を、子どもは信頼します。ではこういう語りをどのようにして身に付けばいいかというと、私は書籍（松尾

英明先生や宇野弘恵先生、山田洋一先生の本など）から自分の考えに合うものを使わせてもらって、少しずつ自分のものにしていきました。大切なのは、自分自身が本当にそうだなあと考えるものだけを子どもたちに伝えていくことです。心にもない上っ面の言葉は、子どもたちには通用しません。

◎五年生の算数は難しい！要学習：

どの学年にも難しさがあることは承知の上で言いますが、五年生の算数は難しく、教えるのが大変です。

四年生までの学習の積み上げが無いと話にならない小数のかけ算・わり算。

公倍数・公約数、約分・通分、そして異分母分数のたし算・引き算。

そして何より手強いと感じているのが、「割合」「単位量あたりの大きさ」「速さ」などの単元の文章題です。四年生で算数の壁にぶつかった子どもたちが、決定的に算数嫌いになるのが五年生と言っても過言ではありません。

計算領域に関しては、学力研実践の得意技である「さかのぼり・くり返し」でコツコツと地道な指導を積み重ねていけば、大

「この中も伸ばす」を本気で考える連載 77

「意欲格差」に負けない！公立小学校へ

事務局長 岡本 美穂

公開授業まで

久保先生からの学び・アドバイス

2021年4月〜現校長先生が赴任。

「学校づくり」について、久保先生が我が家に来られるタイミングでアドバイスをもらうことにした。

①4(3)土の久保先生からのアドバイス

◎組織論について、教職員みんなのやる気を引き出す〜

◎3本柱

1. 基礎基本づくり

・実態調査↓4.7・11・2.2月行い比べられるようにする。それをプリントアウトして、夏休みに中間総括の研修をする。手直し(成果が出たことを共有の月以降やるべきこと)を行う。計画↓実践↓調査して改善するサイクルで行う。1.2月は今年分の漢字を入れる。

・帯タイム↓やり方は自由。

2. 授業改善

・3本から全学年公開できるようにする。
・提案として5月に模範授業を行う。オーダーボックスの授業をみんなに見てもらおう。
言葉遣い、音読、板書、発表の形式など。

3. 学習規律

◎私のおいにする「学力向上だより」

・手書き
・見やすく、若い人へ
・学習規律 オススメなど軽いページ2ページほど
◎4月から7月の3ヶ月でさかのぼりをしていく。データをもとに改善していく。学びの状況をつくる。

◎来年度は漢字の前倒しができるようにする。

◎文部科学省の方針、指導要領を基に

②4(1)土の

久保先生からのアドバイス

・振り返りをパソコンで打つ

↓教訓を載せる。意見のまとめ。

総括して結果

↓次にどんな課題があるのかの方向性をリーダーが示せるようにする。

・学力向上だより作成できるようにする。
来年度は〇〇プロジェクトと計画して、各学年一人ずつ、校長、教頭で会を作って研究する。

↓校務分掌に位置つける。

・組織として動く。

・エネルギーのある人を校長に伝える。

・来年以降、中間総括をしながら、みんなではなく、まずは何人が巻き込む。

◎研修は上から委員会から(

◎研究は子供の現状からつながる。

③5(1)土の

久保先生からのアドバイス

・基礎実態調査 プリントアウト(4月分)
つけたい力という言葉が GOOD

・教師の授業を見る力

保護者の目を高める。一斉授業で目の前の子供の成長を見せる。参観目を大切に。

・まず、教員・校長の目をこぼさせる。

・クラス会議

問題は形を決めない。自治(クラス)がうまくいくように会議している(手直し)ダメだったら手直しする。形はどつでもよい。

・ちよこつと学習会

話し合い活動 仮想ならモチベーションが上がらない。モチベーションは自分の中にあるもの。困っていること、ほしい、を具体にして当事者意識を持つようにする。困っていることを最初にする。子供にとってはマイナス面の方が話しやすい。

④の久保先生からのアドバイス

・データで学校づくり

・熱量・技術は違うので、模擬授業を参観してもらおう。データで見る。

・自発性は高学力の属性。

・学力をつけることが面白い、100点にする。どこで自発性を身につける。

・手立てをきっちり伝える。

・成功体験を先生に。

具体的に成功体験をどのように先生にしたらいいのか？変わるとき(過程)にオーラが出る。

・同僚性

圧力ではダメ。決まったことはみんなでやる。科学的に説得。どつしたら心地よくなるのか？比較しても意味がない。心地よくできるようにする。小言にならないようにする。

⑤5/22(日)の

久保先生からのアドバイス

・学校づくりで一年間総括する。

・中間総括

↓手直し↓決まったことは実現しようとする。

できた！わかった！つながった！という

テーマ

・担当の通信のポイント

・気楽に。見た人が役に立つ。ほつとする

・共通的理解。ラフに

・字数半分 ↓工夫して読んでもらう。

・心地よさ ↓習熟100日実践

⑥10/9の久保先生からのアドバイス

・短縄 なわとび交流

1, 6年 5, 2年 3, 4年 ペア

大縄は格差が出やすい。憧れられるように。

・授業参観 子ども同士

互いに見学し合う。ペア学年を作つて。

↓感想を伝え合う。

・交流し合う。

・授業も成果(価値あること)を行う。

⑦の久保先生からのアドバイス

・国語の授業を通して、国語の学力をあげる

・授業改善

・学習規律 ↓子供自身がお互いに工夫を。

心の解放。なぜそうなるのかわかること、それを伝える。賢くなる。

≡≡≡他の子どもへの栄養に。

・基礎基本

一つの課題に向かって発揮する子どもたち

へ

教科学習の発展 ↓学級づくり

・お互いが見える

・クラスの様子が見える。

⑧の久保先生からのアドバイス
体づくり

4・5月ダンスで体づくり↓ムービーにして見せる。一緒にやる場を意図的に持つ。

ダンスはみんなでやりやすい。

見せる場になり教える場。

人に教えられて100点を学校で実践する。

6年生がリーダーになって。

授業自治ゼミよりQ&A

教職員が違つ中で、理解だけでなく、どうやって理念を大事にしていくのか？みんなが大事、やりたいと思えるように。

(職員集団づくり)

何を言つかより、誰が言つか？が職員室では大事。まずは「学級づくり」で説得力を持たせる。研究授業などで子どももの姿を見せろ。また、根回しが職員室では大事と教えてもらったが、その通りで手順としては、校長先生に考えと計画を伝える。そこで了解を得られたら、部会できっちり

伝える。校長と3人以上の職員が協力してもらえれば職場なら学校は必ず良くなる。

10年ほど前、鈴木健二先生(愛知教育大学)が講座で学校を変えようと思ってるのであれば、まずは全力で校務分掌に取り

組むことをすすめられていた。その言葉は今でも大事にしている。今の学校に赴任し

てからは、

学力向上支援コーディネーター

研修部長

小中一貫担当

児童会

を担当している。この中で、研修部長と児童会を兼ねていることで、「学校づくり」はスムーズに進むようになった。前任校でも

児童会と研修部長を兼ねていた。子ども

主体的な姿を引き出す上で、児童会は核にな

っている。「みとこダンス」「クラス会議」

も児童会の意見としてすすめていくことが

できている。

「からの年生まで、主体として積み上げるのはなぜか？学校としてやっていること。積み

上げ 継続的に。

研修が活性化したことが大きい。合い言葉は「自分事」。低学年、中学年、高学年、とブロックごとに研究授業をしていたときも、積極的に研究授業には取り組んでいたが、今の熱量とは違う。今のしくみでいうと、事前に先生方は、このような授業計画を出す。1組が研究授業の担当だったとしても、2組の先生の時間割も知らせ、見に来てもらうようにしている。事前に、必ず授業は見ることを伝えている。(少しの時間でも良い)。それに講師を招いて「事前研」にも取り組み、発問について、授業の進め方について「言語化」する機会もある。この流れを、4年ほど続けている。



考える力をつけるための授業の組み立て方⑩ 情報量をあえて減らす

大阪教育サークルはやし 荒井 賢一

六年理科に、「水溶液の性質とはたらき」
(東京書籍)がある。



教科書では、上の五つの水溶液(食塩水・重曹水・アンモニア水・塩酸・炭酸水)を見た目・におい・水を蒸発させたときのにおいや残る物で比べさせることになっている。

でも、これを一気にやると蒸発皿の数はとうとう足りなくなる。一班あたり五つの蒸発皿×九班＝45個の蒸発皿が必要とな

る。(洗って次のクラスの準備をすることも考えると、無理がありすぎる。)

しかし、道具の数以上に問題なのは、子どもたちにとって、情報が多すぎることである。

社会の学習で、グラフや写真などの資料を扱う場合がある。このとき、子どもたちにとつて、一番考えやすいのは、その資料がたった一つの時である。

資料が二つになれば、二つの資料の比較をする力が求められる。

さらに資料が三つ以上になれば、情報量が多すぎて、むしろ、考えることができなくなってしまう。

上記の水溶液も、いきなり五つの水溶液を扱うのは、無謀であり、かえって子どもたちの考える機会を奪うことになる。

二つを比べさせる

そこで、今回は「食塩水」と「塩酸」を

比べさせることにした。

ただし、その二つの水溶液が何であるかは秘密とした。

「一つは安全な水溶液で、もう一つは危険な水溶液です。目に入ると失明するかもしれないません。」

まずは、どうやって見分けたいかを考えさせてから、見た目やにおいで比較させ、その後、2つを蒸発させ、さらににおいや何が蒸発皿に残るかを調べさせる実験をさせた。

五年の理科では、水溶液を蒸発させるととけた物を取り出すことができることを学習している。ただし、塩酸は蒸発させても何も出てこない。(塩化水素という気体が出ているから。)

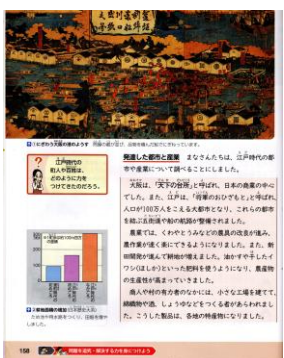
その違いを学ばせるために、蒸発させた後に固体が残る食塩水と、蒸発させても何も残らない塩酸の二つを扱ったのである。

黄色の試験管と赤の試験管

二つの水溶液を入れるための試験管には、黄色いテープと赤いテープを貼っていた。

一回目 黄：食塩水 赤：塩酸

日本文教出版のP158、159の「発達した都市と産業」の模擬授業を素材に述べていきます。



今回は指導法研究は「めあて」「まとめ」と「実物教材」についてです。

一、めあてとまとめ

「問い」が生まれる授業の実現には、導入段階における「めあて」の設定や終末における「まとめ」「振り返り」が重要になってくると言われます。指導書の「ねらい」がそのまま「めあて」として示されていたり、「めあて」が教師から一方的に示されることは、薦められていません。「まとめ」は本時の「めあて」や学習課題に対して、今日の授業で「何を学んだか」を明確にする活動です。そのため「まとめ」と「めあて」は基本的には正対することが大切と考えられています。

今回の授業では、めあてを「江戸時代の町人や百姓はどのようにして、産業を発達させたのだろう」とし、まとめは、「工夫や努力をし、日本各地に伝え交流し、くらしを豊かにしていった。」としました。

模擬授業の受講者である学生の方や現場

の先生方の感想で

「深澤先生の授業は本当に、あれこれと考え話し合ったり資料を見ているうちに、それこそ黒潮に乗って日本の周囲を一周してしまっただよように学び、めあてからまとめに戻ってきました。」

「深澤先生は、様々な知識をお持ちでありながらも、主要な発問をしっかりと考えておられたり、めあてに沿って、そこで考えて欲しい事柄に合わせて情報を出していた。そのように、一時間で何を児童らにつかんでほしいのかといった軸を自分なりに考え、主要な発問をしっかりと考えることが大切だと考えた。」

と書いてくれました。めあてとまとめを直結して、授業を感じてくれたようです。

二、実物を提示

今回の授業で見せた「実物」は、「綿」「干しいわし」「大豆、塩」「醤油四種類湯浅・龍野・銚子・野田」で現在生産されている企業のものです。

「今回の歴史の授業であれば児童生徒自身が『なぜ江戸に醤油などを伝えたのか』などを自分たちで課題として見つけるための

発問が大切になってくる。そこで、醤油の原点に立ち寄り、現在市販されているキッチンマンなどの具体物を取り扱うことで更なる意欲や興味関心を引き出し、課題を見つけていく意欲づけにつながると考えた。

「『どうしたら子どもたちが授業の内容をイメージしやすくなるか』ということをも特に意識していきたいと思いました。今回の授業では、具体物として、綿と醤油が準備されていましたが、醤油に関しては、具体物があったからこそ、私たちは「あ！この企業知ってるぞ！」と理解をしやすくなり、より授業に向かいやすくなりました。児童も同じで、イメージできるようになると、自然と授業に集中して取り組むことができるようになりました。」

「歴史の内容であることから子どもたち自身では想像しにくい内容も多々見られた。その際には、子どもの実生活に結び付けた例えを提示したり、本物の具体物を使用していた。これにより、子どもたちは容易に想像でき、新たな知見を広げること、新たな経験ができると感じた。」

これまで歴史の授業をしてきて、実物は興味を引き出すためにとてもいいと思います。実物は触ることもできるので、五感から学習できます。視覚、触覚、聴覚、などから大きさや質感から創造力を引き出し、具体的に理解する、よすがになります。

それがないと、教科書の視覚情報だけではよく分からず、想像することも困難なものです。

実物教材の有効性は、子どもに実感をもたせることができ、疑問をもたせたり、課題をつかませたりすることができます。

しかし、実物教材はただ見せるだけでなく、そこから学習ができるようにする必要があり、実物教材はただ見せるだけのみにする実物を手に入れると見せることのみになりがちです。「こんなものを先生はさかしてきたんだ。見てごらん」「すごいだろう」という意識が働きます。私は何度も失敗しました。

大学での模擬授業で使用してきた実物教材を紹介しましょう。長篠の戦いでは、鉄砲（火縄銃）のレプリカと鉛の玉という実物教材を使用しました。長篠合戦図屏風

を拡大したものをグループに一枚くばり、考えていきました。授業感想にこうありました。「一つの絵図から教科書の図を用いながら、みんなで一つひとつ解明していくような流れが学びのおもしろさを掻き立てていると感じた。そこには、教師が児童の

これまでの知識を覆すような発問などがあり、その意外性や物事を背景まで捉えていくことがより記憶にも定着しやすくなると感じた」

合戦図屏風を見て最初にはいるのが織田・徳川の火縄銃です。火縄銃が合戦において重要な役割を果たしていることをおさえたのちに、「教科書P25に写真があるね。どれぐらいの長さか手でやってみて？」と問い、子どもたちに手を広げさせて、長さを想像させます。友達と「これぐらいかな」と言わせたあとに、準備しておいた鉄砲（火縄銃）のレプリカをみせたのです。そしてクイズとして、火縄銃の値段を考えさせます。その後、発問として「武田軍は鉄砲をもつてなかったの？」問うていきました。指導法研究では実物教材を見せるタイミングと活用方法が重要です

鈴木大裕著『崩壊する日本の公教育』（集英社新書）の紹介

金井 敬之

公教育の崩壊とは

増え続ける子どもの自殺、不登校、教員の精神疾患、義務教育学校の教育格差の拡大、危機的な教員不足、学力テスト体制の学校現場、マニユアル化する授業、「使い捨て労働者」化する教員、働き方改革で行われる学校部活動の地域移行という名の「民営化」などが鈴木氏のいう公教育の崩壊の事例や現象である。

鈴木氏は、それらの問題を分析しているが、そのキーワードは新自由主義である。新自由主義というワードに照らして考えていくと、公教育崩壊の様々な問題がつながっていることがわかる。

新自由主義とは

政府の経済活動への介入を極力減らし、市場原理に基づいた自由な競争を促すことで経済成長を目指す考え方である（198

0年代に広まったので「新」がつく）。

そのメリットは、政府による規制を撤廃して、自由競争を促すことで、さまざまな企業が参入しやすくなり経済が活性化される。自由競争の結果、消費者により安いモノやサービスが提供される可能性もあると言われている。

デメリットは、自由競争を促すと、業績のよくない企業や事業者は市場からの撤退を余儀なくされる。実力主義のため、失業者が増えて貧富の差が拡大しやすい。また、政府の介入を極力減らすため、手厚い社会保障が受けられなくなる。また、大規模な災害が起こったり感染症が広がったりしたときに、財政出動の対応がしにくい。

このような新自由主義が教育にもち込まれると、前述した義務教育学校の教育格差の拡大、危機的な教員不足、学力テスト体

制の学校現場、マニユアル化する授業、「使い捨て労働者」化する教員、働き方改革で行われる学校部活動の地域移行という名の「民営化」などの問題は、起こるべくして起こったものであり、新自由主義の当然の帰結であることがわかる。その結果、教員は自由度を奪われ、やりがいもなくしていく。氏の恩師の校長が勤める千葉の公立中学校はすばらしい。子どもたちのせいちょうのために、教員がやりたいことを自由にやれる環境をつくっている。

子どものいちばん身近にいる大人のひとりである教師が、やりがいや夢をもって子どもたちの前に立つことが困難な教育環境では子どもたちは育たないと思った。

教員はサービス業か

子どもや保護者のニーズに对应して、質の高い授業や居心地のいい学級づくりをしたという思いから「サービス業」と考えている教師がいるかもしれない。しかし、「教員はサービス業」ととらえると「お客様を教育する」というジレンマが生じ、親は納税で教育という「商品」を購入する消費者になり、上質なサービスを受けようとする。

不満があると時にはクレームとなる。新自由主義の悪しき影響である。

個別最適化の行きつく先

個別最適化学習を取り入れようとする学校があると聞いた。

子どもたちがつい立てに仕切られた空間で、パソコンから出される自分に合わせた問題を解く。非常勤講師の教員が機械の不具合を調整し、集中力の切れた子どもに声かけに専念する。このようなアメリカのロケットエデュケーションと呼ばれる「授業」（とよんでいいのだろうか？）が、個別最適化学習の行きつく先である。

公教育の崩壊は大阪から始まる

第3章の4にある「日本の公教育の崩壊が大阪から始まる」という見出しに、大阪で教員生活を送ってきた自分はドキッとした。大阪の公教育の崩壊とは、高校受験に影響を及ぼす「チャレンジテスト」、「公設民営学校」の開校、学力テストの結果を、校長や教員の人事評価やボーナスに反映させる「メリット・ペイ制度」の導入など、公教育の市場化と民営化の体制である。

これは新自由主義の教科書通りのシナリ

才であり、維新府政が公務員攻撃、組合攻撃をの、彼らにとって当然のことであった。私学の授業料無料化（全額無料ではない）は、公立高校つぶしの一環であり、公教育の民営化路線である。

西岡常一棟梁の木の話

この本を読んで印象に残っている（アウシユビツツの子どもたちの遊びの話も胸が詰まったが）のは、法隆寺大修理を行い、薬師寺金堂や西塔などを再建した宮大工である西岡常一棟梁の話である。

木は人間と同じで一本ずつが全部ちがう。それぞれの木の癖を見抜いて、それに合った使い方をしなくてはならない。そうすれば、千年以上もつ建造物ができる。飛鳥時代の職人の技術は、数値化や言語化ができないので、コンピューターに教え込むことができない。職人の仕事は、機械やコンピューターでは代えられないと西岡は断言する。木の個性を見抜いて使うと、強くて長持ちするが、個性を大事にするより平均化するほうが仕事はずっとはやいし、木の性格を見抜く力もいらぬ。そんな訓練をしなくてもいいので、昨日始めた大工でもい

い。大工に木を見抜く力もいらぬから、養うこともないし、ついには木を見抜く力もなくなってしまう。職人、大工を教師、木を子どもたちと読みかえると、今の教育政策の問題点が見えてくる。

おわりに

新自由主義教育に私たちはどうかかわっていくかであるが、教員の力では、すぐにかんたんにその体制を覆すことはできない。しかし子どもたちのためにならないことをやめるといふ「既存の境界線をずらす」とはできる。

アメリカのシアトルで、子どものためにならない業者テストが廃止になった発端は一人の教員の「やりたくない」という言葉だったそうだ。それにかかわった教員たちも既存の境界線をずらした人たちである。当時の松井大阪市長に怒りの提言書を書いた久保敬校長も境界線をずらしたひとりである。

そう考えると、どの子にも確かな学力をつける、どの子も伸ばすという理念をもつ学力研も「既存の境界線をずらす」ことができる存在だと思っ。

学力研 第十八期 先生のための学校（オンライン） 六回目報告

鈴木基久

【講座A】深澤英雄

「見えない学力」とは

「今、子どもたちにつけたい力」

『見える学力、見えない学力』を岸本裕史先生が出版されたのが1981年。計測可能な「見える学力」を海上の冰山だとすると水面下にはその何倍もの「見えない学力」があり、「見える学力」を支えている。岸本先生によると「見えない学力」の3要素は、言語能力・根気・先行体験である。「見えない学力」は、最近注目されている「非認知能力」だと考えられる。学力を次のように定義すると、「見えない学力」が大きくかわっていることが分かる。

学力＝言語能力×意欲×継続

子どもの成長は、試行錯誤、行きつ戻りつ。子どもがやる気になるに

は親、教師が近くにおいて、愛情をこめて接してくれる。仲間がいる。そのことで続けることができる。だから、より計画的に、より緻密に、よりスモールステップで見えない学力を意識した取り組みをする必要がある。

見える学力・見えない学力を共に育てていくためには、見える学力のつけ方が大切で、どういうつけ方が両方鍛えることになるのか。その答えは、いかに共同を多く入れるか。共同を多くすることで見えない学力が活性化できると考える。

【講座B】堀井克也

「説明文の学習 せめてここまでは」

高学年の国語の時は書写を含んで週5時間。この限られた時間で約

2200字の教材文を配当時間7時間でし授業しなければいけない。学級の実態としては、学習用語が定着しておらず何を学んできたのか言えない子が多い。そのために、1年間を見通して基礎から繰り返し指導することが大切である。

① まずは「音読から」

・スラスラ読めない子は、内容は理解できていない。

・授業に入る前に何度も音読。家庭学習任せにせず、必ず学校で指導。

② 地道な「語彙」の指導

・「読めない」原因は、言葉が知らないこと。自分の辞書を手元に置いておき、知らない言葉が出てきたら調べる習慣をつける。

③ 《逐語的読解》の力を伸ばす

・逐語的読解とは、「語に即した読解」
「答えが必ず文章の中にある読解」のこと。音読の場面で口頭で質問したり、問いをノートに書き写させ答えもノートに記述させたりする。

学習用語の理解のためには、なぜ

段落番号をつけるのか、はじめ・なか・おわりに分けるのかについても確認しておく。教師が年度初めに、学期ごとの説明文教材を分析しておくことが大切。文章の『構造』を意識させる指導の積み重ねによって、国語が楽しいという子どもが増えた。

【講座C】井川有香子

「高学年の学級づくり

〜目の前の子どもたちと共に〜」

集団づくりで伝えたい4つのこと

- ・ 目の前の学級の実態をよく見る。
 - ・ 今までの方法がいいのか検討する。
 - ・ 継続できる無理のない取り組み。
 - ・ みんなで楽しみ、クラス文化へ。
- ◆朝の会のペアトーク 日直がお題を決める。会話のポイントを掲示。

◆係活動を変えてみよう！

①係活動を班の数だけ分割する。

(仕事内容は均一に設定)

②仕事は、毎日変わる。(どの子どもどの係の仕事もできるようにする。)

④朝の会の時に決める。

④掃除は、1週間、同じ場所を班で担当するので、役割を毎日変える。

⑤問題があれば班で話し合い改善。

◆よりよい行動をほめて増やす

BSIIポジティブな行動介入と支援

◆漢字相撲の取り組み

・ 学期ごとの漢字の小テストを十日

間連続で取り組むイベント

◆読み上げ計算(志水廣先生の本)

・ レディネス、習熟のために活用

◆体づくり運動

・ またわり、寝ブリッジ、ゆりかご、

スクワットを毎日する。

◆給食完食チャレンジ

↓給食完食は、SDGsも意識して

◆会社活動↓それぞれ、自由にやっている。「クラス目標」にそって実施。

◆学級会↓3学期には自分たちで

司会からまとめまで

・ 6月ぐらゐまでに居心地のよい安心できる学級に。

・ あとは先生が子どもと共に楽しむこと。『ピンチをチャンスにかえる発想』で。

【講評と講話】 久保 齋 校長

自発性を強要すると自治の萌芽をダメにしてしまう。本来、自発性を求められるのも求めるのもおかしい。それは、人間が生きている限り生まれてくるのが自発性だからだ。幼児保育で保育者が見守る保育をするように、担任がにこにこ見守っていれば、子どもから自然な自発性が生まれる。学活や学級会では強要せず好きにさせることが本来の自発性を促すことになるのではないか。

年度末なので、鍛えるべきことは鍛えて賢くなって進級、できたという成果を実感した心地よいクラスの終わり方ができるようにしてほしい。

《受講者の感想より》

・ 久保校長先生をはじめ深澤先生、堀井先生、井川先生、ホットでまっすぐな教育観と教育実践、誠にありがとうございます。見えない学力は共同学習で活性化させるといふ核心部分に三名の先生方のお話はつながっていると感じました。

「春の集い」の様子

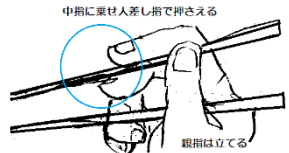
会場 15名の参加

2月16日(日)午後1時より、下京いきいき市民交流センターで春の集いを行いました。参加者は15名でした。書くことの少なくなった時代、書き方、鉛筆の良さ、読み書き計算について一緒に考えていける機会を、との挨拶で始まった今年の春集会。元小学校教諭で「持ち方伝道師」の前田昌彦先生に、実技を交えたお箸、鉛筆の持ち方をご指導いただきました。その後、各家庭塾よりの報告・交流を行いました。

へ実技講座

前田昌彦先生

毎日持つスプーンや箸の使い方を練習しておけば、鉛筆はスムーズに持てる。まずはお箸の練習。力を抜き、指をスムーズに動かす練習が大切。小指・薬指は使

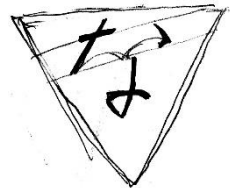


っていない。下側の箸は動かさず、人差し指・中指で上側の箸を軽く動かす。箸先でカチカチ音が鳴らせたらか力が抜けた証拠。まずは一本から、ユビツクス※を使って、外して持つて・・・スモールステ

ップで。小さい消しゴムをいくつも積み上げたり、消しゴムをチョコレート菓子に替えたり、子どもには楽しみを入れてあげて。お箸でない方の手は、お茶碗を、手に何も持たないときは机の上に置き、体を起こしさせさえる。この動作が字を書くときに紙やノートを押さえることにつながるのだそう。



そして鉛筆。書き場所は、両手で机上に△を作り、右手を開き起こした位置で鉛筆を持つ。起こした右手で紙に触れているのは、豆状骨と、小指の先



自分で今日の字の中から△と◎のものを探し、自己評価する。見つけた△は、書き直しOK、花丸にすることもできる。練習して変わったところ、良くなったところを、どんどん褒めてあげる。文章の7割はひらがなで、3割は漢字という構成、ひらがなが上手になれば、字がきれいになるといふこと。「力を抜く」がキーワードだった。力を



練習して変わったところ、良くなったところを、どんどん褒めてあげる。文章の7割はひらがなで、3割は漢字という構成、ひらがなが上手になれば、字がきれいになるといふこと。「力を抜く」がキーワードだった。力を

入れている子の指は、爪が白くなっているのが分かるそう。

具体的に分かりやすく、実技ならではの丁寧な指導くださった。子どもたちには、タブレットでなく自分の字を書く大切さを、おうちの方も一緒に考えてほしいということだった。

へ 感想 よ り へ

※ユビックスHPより

○ えんぴつの持ち方がここまで奥深いものとは思いませんでした。我々の

使うボールペン・シャーペンには自然に力が入ってしまふ筆記具だと感じました。読み書きが学習にとって大切。その前に書くことが好きになる土壌をえんぴつで作ってあげることができま

きます。



○ えんぴつの持ち方、お箸の持ち方の重要性について学び、とても参考になりました。細かく、分かりやすく、丁寧にあり

がとうございます。子どもに注意するばかりで、自分も色々できていない所があり、特に親指が難しいです。

○ 「鉛筆の持ち方指導」のキーワードは「余計な力を抜く」ということでした。「入れなければいけない力、入れている力」と広げて考えると、鉛筆の持ち方にとどまらず、教育全体を考えるキーワードになるのだと思いました。

○ 鉛筆の持ち方で疲れずに字が書ける、きれいな字が書けると自信が付いて、書くことが楽しくなる。そうすることで学力も付いてくる。良い点ばかり

りですね。自分の持ち方が正しくなかったことに気付きました。

○ 久々の前田節、楽しめました。また著も鉛筆も正しく持てることで所作もきれいになり、文字も丁寧に書けることで心地よさを感じました。きつと子どもたちも同じだと思えます。

○ 大変参考になりました。書くことの基本だなあとあらためて思いました。今まで、こんなにしっかりと持ち方を教わった経験がなかったので、とても楽しかったです。

○ 鉛筆を使う子が、小学生までになりつつありますが、鉛筆を正しく持つことは、姿勢から入ることがよくわかりました。すつと立ってそのまま座る、椅子を前にひく、などは、明日からの授業に取り入れたいと思いました。

(文責根無 信行)

局長だより 3月

◇学力研最新情報 岸本 ひとみ
今月は、みなさんにお知らせするニュースが2つあります。

重大発表 その①

◎全国フォーラム記念講演は

宮口 幸治さんに決定！

日程 8月2日(土)

午前 実践発表

記念講演

午後 学年別講座

会場 エルおおさか

今年、「ゲーキの切れない非行少年たち」(新潮社)の著者である宮口幸治さんをお迎えして、全国フォーラムを開きます。この本、コミック版も出ていて、教育に関わる私たちにとっては、衝撃的な内容でもあります。

宮口さんのお話の中には、認知機能トレーニング(コグトレ)の重要性が出てきます。ICTに傾きがちな公教育ですが、「すべての子どもに確かで豊かな学力を」と願う、私たち学力研の思いとは、相

反しているような気がしてなりません。今回、宮口さんのお話を通して、いわゆる低学力児として放置されている子どもたちへのアプローチの仕方が変わること願っています。

重大発表その②

この春より、年会費制度を再開します。

★3月～8月2日入会の場合

4000円

★8月3日～3月入会

2000円

という設定です。会員の方には、すべてのオンライン講座に無料で参加いただけます。対面講座も、特典があります。

会費振込先
ペイペイ銀行 うぐいす支店
店番008
普通口座 3607141
名義 スギモト マナミ

毎年、満席のオンライン講座第1回です。

3月23日(日)13時～15時
学期末は、学期はじめへの第一歩。ぜひ。この講座に参加して、気持ちのいいスタートを！
※詳細はhpにて

◇1年生講座 第1回・第2回

<https://koke.jp/e/f4e022068e57476d8ef288f51b6f9f2d/>

第1回 3月27日 19時半

第2回 3月28日 19時半

新年度、1年生担任が決まったら、ぜひご参加下さい。連続10回講座です。

■学力研・春の大分集會

新年度スタート講座☺大分開催決定3月30日(日)
学力研の豪華講師陣が、大分に！新年度の学級づくり・授業づくり・学力づくりをどう進めればいいのか、ズバリ伝授。
どの子もキラキラと輝かせるために学び合いましょ。

対面講座のよさ、それは「感情が揺るがられる」と

です。講師の「非言語情報」が参加者の感情に刺激を与えること間違いありません。またお知らせ

させていただけます。「まぐまぐ」でもお知らせさせていただきますので、お見逃しのないようにしてください。

■学力研・新学期スタート講座

<https://www.kokuchipro.com/entry/8f162c3b4fe8bc9cc26300452d87373/>

毎年大好評の人気講座で、会場を広げて企画しました。ぜひ誘い合っでご参加ください。

日時：4月5日(土)

ここぞしか聞けない・見られない・手に入らない講座です。特典のおみやげつき
テーマ

「1年間を見通した授業づくり・学力づくり・学級づくり」
できた！楽しい！
学力づくりの第一歩

根無 信行
考える力をつけるための
授業の組み立て方

荒井 賢一
・じんわり、ほっこり
学級づくり

岸本 ひとみ
会場：エルおおさか
参加費：2000円

学力研カレンダー



《各地のサークル・部会 2025年 3月 例会、イベント》

どなたでもご参加いただけます。お誘い合わせのうえお越しください。お待ちしております。

※会場等使用状況により、変更の可能性もありますことをご了承ください。

3/

- 22 (土) 大阪教育サークルはやし 午後 エルおおさか 荒井 aik28501@bca.bai.ne.jp
28 (金) 伊丹学力研 18時半～ ※阪急武庫之荘駅近く 前田 090-9715-3830
28 (金) 春日井学力研 18時半～ レディヤン春日井(JR勝川駅) 山口 080-6904-1697

オンライン開催のサークルには、参加方法を連絡先にお尋ねください。

下記サークルも活動していますので、翌月以降の日程のお尋ね等にご連絡下さい。

- いろえんぴつ (加印) 18時半～ 天満南小なんなん広場会議室 岸本 090-9117-6330
- みなみ学力研 9時半～12時 阿倍野区民センター 図書 nobu580701@yahoo.co.jp
- 持ち方書き方研究会 ライン会議で行います。日時や参加のしかたはご連絡を 前田 090-9715-3830

《全国キャラバン等 今後の予定》

- 学力研・春の地域集会 3月30日(日) 9時15分～15時45分

会場：ホルトホール大分201号(最寄り：大分駅)

「新学期スタート講座(1年間の学級づくり・授業づくりを見通す)」

講師：久保齋 岡本美穂 荒井賢一 参加費2000円

- 春の先生のための学校【全3回】

3月23日(日) 13時～15時 4月13日(日) 13時～15時

5月18日(土) 13時～15時

オンライン

- 学力研・新学期スタート講座 4/5(土)エルおおさか

- 1年生講座 3/27&28 オンライン 19:30～20:30

(詳細はメルマガ「まぐまぐ」、「こくちーず」などで)

(講師派遣希望、サークル情報などは 事務局へ 079-426-5133)

ご意見・ご感想は下記まで

荒井 賢一 E-mail aik28501@bca.bai.ne.jp

李 詩愛 E-mail iwamotoshie@gmail.com

堀井 克也 E-mail katsuya4k1h9@gmail.com